

今週のテーマ

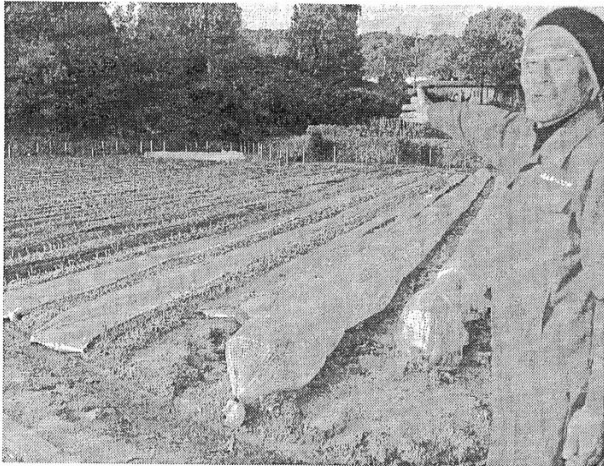
地域活性化

地産地消・食育

農地の有効活用

都市農村交流

農業委員会活動



ニンニクが栽培されている圃場を示すヘルス工業の溝端勉さん

# 耕作放棄地生かし農業参入

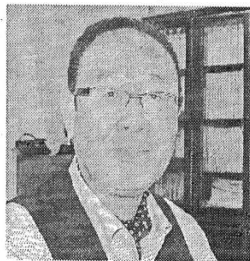
下水道処理施設の維持管理を本業とする民間会社が農業に参入、耕作放棄地の解消や鳥獣害対策に貢献している。処理過程で出る脱水ケーキ(※)を原料にした堆肥を投入してニンニクを作る。下水汚泥は安全性への懸念があるが、同社は生活排水由来であれば問題ないことを1年かけて確認。むしろ高騰しているリン成分を含み、肥料適性にも優れるとしている。年間1万トンを超す脱水ケーキの全面利用に意欲を燃やす。  
(※脱水ケーキ)下水処理の際に発生する粘土や汚泥を脱水した固形物)

## 和歌山懸ヘルス工業(株)

### 遊休水田でニンニク栽培

#### 下水道処理リサイクル技術を応用

今回、農業参入したのは、たかが背景にある。和歌山市に本社を置く和歌山懸ヘルス工業(株)は「農業が採算に合わないことはわかってはいる。しかし工業、吉村英夫代表取締役、し環太平洋連携協定(TTP)に及ぶ。市農業委員会では、



吉村英夫さん

と考えた」と吉村さん。年々増える耕作放棄地の解消も念頭にあったという。和歌山市の耕作放棄地面積は4380ha(10年農林業センサス)で10年前の約3倍、耕地面積全体の2割弱に及ぶ。市農業委員会ではこれを機に企業参入のイメージアップを図りたいと話す。

#### 鳥獣害対策にも貢献

農業経営基盤強化促進法に基づく決定は今年8月。同社が今回借りた農地は5年ほど前から放置されていた水田で、周辺農地へのイノシシ害なども指摘されていた。今回の参入は農地の有効利用のほか、こうした鳥獣被害の回避にもつながった。

### 下水処理過程で出る「脱水ケーキ」

## 安全性確認し堆肥原料に注目されるリン成分の多さ

脱水ケーキを利用した堆肥の成分

	分析値	備考
窒素	2.2%	
リン酸	4.3%	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> 換算
カリ	0.75%	K <sub>2</sub> O換算
炭素	33.0%	
C/N比	15	

ヘルス工業では農業参入に当たり環境計量証明事業所を設立。脱水ケーキの堆肥利用が環境や農作物に悪影響を及ぼさないかを1年かけて検証した。その結果、

生活排水からできる汚泥なら重金属汚染などがなく、安全性が高いことが判明。窒素・リン酸・カリの3要素も含まれ、肥料適性もあつた(表)。乾燥させ、おがくずを混ぜるだけで良質な堆肥になるという。

今回の耕作放棄地再生では脱水ケーキを原料にした堆肥を25ト投入、ニンニク2種を栽培している。吉村さんは「ニンニクをもとにしたサプリメントの開発など6次産業化も目指したい」と張り切る。

和歌山県から出る脱水ケーキ量は年間1万6000ト、1万7000ト。通常はコストをかけての焼却・埋却処理だが、資源として再利用できれば一挙両得になる。ヘルス工業では「脱水ケーキは含水率を下げる必要がある。天日乾燥できる場所を探している」と話す。